9月の道内景況

情報連絡員レポート

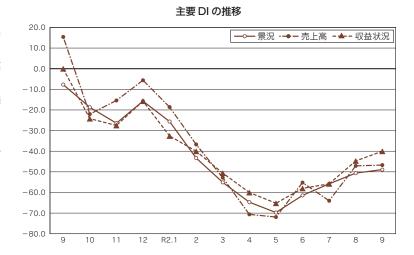
主要DIの回復基調続くも製造業では一部陰りが見られる

概 況

主要DIの推移では、全ての項目で若干の 改善が見られた。

業種別に見た前月との比較では、製造業は「景況」「売上高」「収益状況」で回復傾向にあるものの、「販売価格」「取引条件」「資金繰り」「雇用人員」は小幅ながら悪化した。

非製造業では「売上高」を除く全ての項目 で改善したが、依然マイナス域で推移し、足 踏み状態が続いている。



景況天気図(前年同月比)

	全業種			製造業			非製造業		
	8月	9月	前月比	8月	9月	前月比	8月	9月	前月比
業界の景況	△50.6	△48.9	1.7 1.7	△54.8	△53.1	1.7 *	△48.1	△46.6	1.6
売 上 高	△47.1	△46.7	0.4	△45.2	△37.5	7.7 *	△48.1	△51.7	△3.6
収益状況	△44.7	△40.0	4.7 *	△45.2	△40.6	4.5 *	△44.4	△39.7	4.8
販売価格	△11.8	△11.1	0.7 *	△12.9	△15.6	△2.7	△11.1	△8.6	2.5 *
取引条件	△16. 5	△14.4	2.0	△ 9.7	△12.5	△2.8	△20.4	△15.5	4.9 *
資金繰り	△24. 7	△ 21. 1	3.6 *	△22.6	△28. 1	△5.5 `\	△25.9	△17.2	8.7
雇用人員	△18.8	△12.2	6.6 1	△ 6.5	△ 9.4	△2.9	△25.9	△13.8	12.1

(凡例) 30以上 10~29 9~△10 △11~△29 △30以下

天気図の見方 各景況項目について調査月と前年同月を比較して、「増加」(または「好転」) したという回答(構成比) から「減少」(または「悪化」) という回答(構成比) を差し引いた値(DI) をもとに作成。天気の表示は凡例のとおりです。

- 輸出や外食産業はいまだ低迷が続き、採算重視の稼働になっている。秋鮭等の 漁獲量が少なく高値になっている影響で、外部の大型加工場へ流れており、地 元加工場での作業量が減少傾向にある。 (水産食料品/網走)
- ・観光客等の人出は徐々に戻ってきている。各地でイベントやネット販売等様々 な工夫を凝らして売上拡大を目指しているが、いまだ前年並みの売上にはほど 遠い。 (めん類/全道)
- ・8月単月の出荷量は味噌・醤油ともに前年比減。全国的にも、外食・観光業等 との取引の割合が高い企業は依然厳しい状況にある。 (味噌・醤油/全道)
- ・道内外のビジネス客、旅行客が増加し、各地域に少しずつ賑わいが戻ってきて いる。飲食業界でも緩やかに売上は伸びているが、昨年実績からはほど遠い。 スーパーの売上増も一服し、飲料水全体の動きは依然低調で推移している。
- (飲料/全道) ・製材市況は、カラマツ、エゾ・トドマツいずれも弱保合。原木市況は、カラマ ツは弱保合、エゾ・トドマツは保合。製材工場ではカラマツ原木、エゾ・トド マツ原木いずれの在庫も潤沢に抱えているが、梱包材やパレットの受注がな く、製材の荷動きは非常に悪い。原木価格も弱保合。DIY 用の製材受注が旺 盛。桟木については、多少動きが出始めている模様。紙原料は、紙需要が落ち 込んでいることから木材チップ価格の低下が見られる。木質バイオマス原料は 多少動きが出てきている。 (一般製材/全道)
- ・9月の生コン出荷量は前年同月比 105.9%の約 387 千 m³。地域別には、前年 同目を上回った分会(協組)は29分会(協組)中、17分会(協組)で前年 (増加は16分会(協組))を上回った。前年同月と比較して、増加したのは千 歳地区、札幌、北渡島など。一方、減少したのは後志、宗谷、室蘭などだっ (窯業・土石製品製造業/全道・生コン)
- ・一般住宅のガラス修理等の細かい仕事やハウスメーカーの新築物件への鋼製建 具の納品等はあるが、それ以外の物件に関しては絶対数が少なく、見積依頼に 対しても価格で取り合いになり、なかなか受注できない状況が続いている。昨 年同月比で売上を大きく落としたところが散見される。コロナの影響で経済環 境は悪くなる一方で、職人たちを雇用調整で週に一日程度休ませるところが出 てきている。 (窯業・土石製品製造業/全道・ガラス)
- ・コロナの影響で営業活動が十分にできず、先行き不透明。(金属機械工作/全道)
- ・一部事業所では工事が立て込んでいるが、全体的な仕事量は昨年よりも少ない (金属機械工作/札幌) (金属機械工作/旭川)
- ・全体的にコロナの影響はさほど大きくない。

・徐々に回復の兆しが見え始めたところもあるが、いまだコロナの影響は大き く、事業環境の変化への対応が求められる転換期にあるとの認識のもと、柔軟 な対応が必要だと感じている。 (家具/旭川)

非製造業(卸・小売・商店街・サービス業)

- ・本年3月以来の大幅な売上減となった。コロナ蔓延により飲食店の倒産件数が 増大したこと、シルバーウィークで人出は増えたものの、飲食店での食事を同避 する傾向は変わらず、飲食店においても満席を避けるため客席スペースにゆとり を持たせるなどの売上減少につながる対策を講じなければならなくなったことが 結果的に青果生鮮品の需要減少に結びついたと思われる。 (野菜・果実/全道)
- ・前年同月の消費税増税前の駆け込み需要の反動減が大きく響いた。シルバー ウィークで人の動きがあったことで、これまでの推移よりは若干落ち着いた感 はあるものの、依然として商況は大きく改善していない。 (菓子/全道)
- ・民間建築工事や設備工事の計画延期及び中止など、コロナの影響を受けた資材 受注減が出始めている。 (電気資材/全道)
- ・コロナの影響に加え、前年は消費税増税前の仮需があったため、組合員の大半 が前年対比で大きく減収。安定している生活雑貨でも売上は減少した。靴履物 は6月以降回復の兆しはあるが、前年対比では6割程度の売上に留まってお り、婦人靴では百貨店から撤退する問屋も増加。外出自粛ムードは解除されつ つあるものの、価格面での要求が厳しくなっている。 (各種商品/札幌)
- ・昨年同月は消費税増税前の駆け込み需要で前年比130%の特需があったため、昨 年との比較では大幅な落ち込みになったが、一昨年の同時期と比較しても95% という結果であることから、消費全体が冷え込んでいると思われる。9月の4連 休は好天に恵まれたが、消費の増加には結びつかなかった。キャッシングにおい ても需要が低迷しており、物販・金融ともに収益は減少した。(各種商品/旭川)
- ・9月は親族が集まりやすい彼岸があり、集客に繋がると思われたが、時節柄、 多人数の集まりや会食を控えたためか買物客は例年より少なかった。一方、シ ルバーウィークは GoTo トラベルを利用した観光客により場内が連日 "密"状 態になる盛況ぶりだった。 (各種商品/小樽)

(各種商品/釧路)

- ・取扱高全体で前年を大きく下回る厳しい結果となった。
- ・9月の4連休や修学旅行生の増加等を受けて、ようやくコロナ以前の賑わいを 取り戻しつつある。周辺ホテルでも満室になる日が増え、10月からのGoTo トラベルの東京追加と地域共通クーポンにも大きな期待を寄せている。函館市 水産物地方卸売市場の9月の生鮮スルメイカ取扱量は、前年を22トン下回る 86 トンと、統計が残る 2005 年以降では過去最低を更新した。コロナの影響 でホテルや飲食店の需要が落ち込み、1 キロ単価は前年を 159 円下回る 730 円にまで低下。一方、今月から道東沖で本格化したサンマ漁は記録的な不漁に より価格が高騰し、以前は3匹500円だったものが今年は1匹500円で店 頭に並んでいる状況。 (各種商品/函館)
- ・昨年は消費税増税前の駆け込み需要で売上が増加したが、今年はその反動とコ ロナの影響で30%の減少となった。 (各種商品/斜里)
- ・組合全体の前年比は83.0%。食品スーパー関連は97.1%、ホームセンターは 67.2%、一般店は64.2%と全体的に苦戦を強いられた。昨年の消費税増税前 の駆け込み需要の反動減が要因と思われる。 (各種商品/芦別)
- ・売上高は対前年比 101.7%の実績。来店客数はほぼ前年並みで推移し、日配品 の取扱いも軌道に乗りつつある。 (野菜・果実/札幌)

- ・コロナの影響で外国人観光客の来店は皆無だったが、シルバーウィーク頃から 国内ツアーや修学旅行等の団体客が増えつつあり、賑わいを取り戻してきてい る。 (鮮魚/釧路)
- ・9月は4連休とGoToキャンペーンの影響で一時的に客数は増えたが、その 後は前年割れで推移している。サンマや鮭の入荷が少なく、北海道の魚の品種 も変わってきている。 (各種食料品/全道)
- ・9月も原油価格の乱高下が続いているが、末端市場においては、依然低価格競 争の激化傾向が見受けられ、安値市況が広範囲に拡大するなど地場中小零細企 業の経営は厳しい。散発的に市況の修復地区が出てきているものの、店頭マー ジンの低位傾向は続いており、低燃費車に乗り換えた顧客が一層目立つなど危 機感をあらわにする販売業者も多い。ここにきてコロナに係る需要減が一層顕 著となっていることもあり、廃業を見据えた厳しい選択をせざるを得ず、従業 員の雇用問題を含め頭を痛めている経営者も散見される。 (燃料/全道)
- ・9月卸値は先月から引き続き若干の値上げ改定で推移した。小売店の販売価格 は横ばい。収支状況も従来と同じく量販店の安値攻勢により厳しい利益□銭に 圧縮、販売量は若干戻りつつあるが、コロナの影響で収益は落ちている。

(燃料小売業/旭川)

- ・GoToトラベル利用のツアーによる観光客が徐々に増え始めている。シルバー ウィークは好天に恵まれたこともあって、道内外からの観光客が前年を上回る入り 込みとなり、SS の売上は昨年の水準まで回復した。しかし例年9月頃から需要が 増加する暖房用燃料は、暖かい日が続いたことで減となった。 (燃料小売業/稚内)
- ・農機大手の売上は昨年並みを確保しているが、中小は昨年同期の8割程度に留 (農業用機械器具/全道) まっている。
- ・販売状況は前年並みだが、商品自動車の不足は継続しており、仕入価格(中古 車の相場) が上昇している。 (中古白動車/札幌)
- ・地元百貨店の8月売上高は、コロナの影響が続き、前年同月比17.3%減の3 億 2,334 万円。9 月共通駐車券の利用は前年同月比 65.5%、買物共通バス券 は前年同月比63.3%といずれも減少した。 (商店街/帯広)
- · GoTo トラベルや町独自の宿泊助成金の拡充により集客面で相乗効果が見られ た。修学旅行の振り替え受け入れなども奏功し、9月は前年対比で回復傾向に ある。 (旅館/音更)
- ・利用者は少しずつだが増加傾向にある。 (公衆浴場/全道)
- ・今後のデジタル化の進行を見据えて、自社サーバーシステムの維持保守や開発 費用を削減するためのクラウド化への設備投資が道内中小企業の間でも積極化 し始めている。札幌市内中心部のオフィスビルは、コロナの感染拡大で、在宅 勤務の広がりや従業員数の減少、景気の不透明感からオフィスの移転計画の中 断や取り止め、拡張予定の保留が相次ぎ、空室率が上昇し始めている。ただ、 システム受託開発案件が今後も堅調に伸長して業績向上に寄与することが予測 されることから、道内中小 IT 企業にとっては新卒学生の採用や技術者人材の 確保のために、駅前立地のオフィスビルへの入居は魅力的で、願ってもない好 機と捉える経営者も多い。 (ソフトウェア/全道)

非製造業(建設・運輸業)

- ・戸建住宅の需要が減少している。コロナの影響で、今年中に無理に塗り替えを 行う必要はないと考える人が増えているためと思われる。
- ・業績は若干下がりつつも何とか持ちこたえており、コロナに対応しながら業務 を行うことに大分慣れてきたように感じる。公共工事は、発注量が少なくな り、年度末の発注等に期待を寄せる状況だが、民間工事においては、発注され る業種に偏りはあるものの少しずつ動きが出てきている。建物、設備の改修や 交換、修繕等が計画され始めており、資金力のある営業先では新築や増築計画 が進みつつある。 (電気工事/全道)
- ・多くの事業所で人手不足の状況が見られる。 (左官丁事/全道)
- ・今年度は追加の発注情報がないため工事関係は 10 月から 11 月にかけて完了 する見込み。公共事業が完了すると、組合員によっては社員の雇用調整を検討
- する可能性がある。市のその他の工事(建築・土木)も例年に比べて発注額が 減少しており、来年度に期待したいとの声が聞こえる。 (管丁事/名寄)
- ・大手運送会社からは休みを増やして欲しいとの依頼もあり、コロナ以前の状態 に戻るには時間を要すると思われる。 (一般貨物自動車運送/全道)
- ・ダンプの稼働は増加しているように思われる。 (一般貨物自動車運送/小樽)
- ・農産物の出荷状況は概ね良好。軟弱野菜の市況は前月に比べ落ち着いてきてお り、昨年並みの出荷量に戻りつつある。一般雑貨や日用品は昨年並みで推移し た。多少コロナの影響は薄らいだように感じる。(一般貨物自動車運送/石狩)
- ・売上高は前年同月比 18.4%減。乗務員数は前年同月比 6.9%減。8 月分チケッ ト取扱高は前年同月比 24.1%減。 (一般乗用旅客/旭川)